



薫陶

かほく市立七塚小学校
校長 宗廣 進一

この気持ちを忘れずに



5月は鯉のぼりや藤の花に応援されながら感染症が通り過ぎるのをじっとこらえて辛抱し、ようやく学校再開にこぎ着けました。もう自分の出番は終わったと言うように、鯉のぼりも藤の花も潔く姿を潜めました。この間の保護者、地域の皆様のご理解とご協力に心から感謝いたします。

この長い臨時休業期間の過ごし方は人それぞれだったに違いありません。後々に振り返ったときに、「がんばった意味があったな。」「結果的に自分のためになったな。」と思えるようになっていけばいいですね。

今回の新型コロナ騒ぎでは、感染者や濃厚接触者、医療関係者への心ない誹謗中傷の報道が聞かれ、学校現場で「人として、何があってもいじめはいけないこと」と指導している我々にとっては、決して子ども達には触れさせたくない残念なニュースでした。

しかしその一方で、心身共に大変な状況で苦しんでいる方々や最前線で戦っている人たちに対し、物心両面の形で感謝、尊敬、励ましの気持ちを送り届けている報道にも数多く触れることができ、幾度となく心が熱くなるのを覚えたのは私だけではないでしょう。このようなニュースに触れた子ども達はきっと、思いやりの心を育て、困っている人に優しく手をさしのべたり、自分の勤めを果たそうと誇りとともに一生懸命に働くことができる人に育っていくことでしょう。

学校再開の嬉しい気持ちを、職員一同で子ども達と共有し、この気持ちを忘れずに頑張りたいと思いますので、保護者、地域の皆様、今後ともご理解とご協力を宜しくお願いいたします。

今回の感染症について厚生労働省は「長丁場の対応を覚悟し、これからもこの感染症と共に社会で生きていくという強い意志が必要である。」と捉え、文部科学省も「学校の新しい生活様式」を確立していく必要性を説いています。例えば、相手との身体的距離の確保やマスク着用、手洗いなどの習慣化、3密を避ける行動様式、授業や給食、掃除、休み時間の場面での留意点、働き方の新しいスタイルなどがあります。ご家庭におかれても、十分な睡眠、適度な運動、バランスの取れた食事などによって「体の抵抗力を高めること」などに一層配慮していただきたいと思います。また、一般生活においても行動様式の変革が求められており、休日に不要不急の外出を控える、仲よし同士の家庭間の行き来や家族ぐるみの交流による接触を控えることの大切さが発信されています。詳しくはネットで「新しい行動様式」で検索してみてください。



ところで今回の臨時休業では、学習課題などの物を届けたい回収したり、学校からの情報を発信したり家庭の情報を受け取ったりすることについて、電子(メール、パソコン)、電話、郵便、教員による配達や訪問など、状況に応じていろいろと工夫しながら行ってきました。その中で行き届かない面もありました。再びそのような場面が訪れることを想定して、今のうちに「新しい行動様式」を整えておく必要があります。こと、情報発信については、当日や翌日の緊急な情報発信についてはかほく市メールの活用が必要ですが、それ以外の情報発信については、ホームページを中心にしていきたいと考えています。ホームページにはその他にも、方針や学校・子ども達の様子、各種たよりや学習コーナーなどを発信・公開しています。保護者・地域の皆様には、どうか学校のホームページを積極的にのぞいていただきたいと思います。

